



諸家所存之書  
永正五年

3951



114  
A 73

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄



今度西里川加形指印書函如解 冥途母 伊賀正法  
 可容不容易師一大事 一合有忍之民之 一之

子書

一西里川加形指印書函如解 冥途母 伊賀正法  
 可容不容易師一大事 一合有忍之民之 一之  
 一西里川加形指印書函如解 冥途母 伊賀正法  
 可容不容易師一大事 一合有忍之民之 一之  
 一西里川加形指印書函如解 冥途母 伊賀正法  
 可容不容易師一大事 一合有忍之民之 一之



軍艦中令仰より其船場の力振り門不立り其の事の上  
之より及打掛は 作由方より之を以て又海軍の事なり 作由方  
頭立一才の川文波編載の事多し其の事行はれ奉事一人心中  
亦海軍連務方より之を以て諸指揮は 作由方奉 作由方人初  
儀は中上之を以て其の南門中奉事より一人を以て其の事  
情多し其の事多し其の事多し 水之奉事より其の事多し其の事  
之より海軍の事多し其の事多し 作由方奉 作由方人初  
天より其の事多し其の事多し 彼より其の事多し其の事多し  
必勝の事多し其の事多し 作由方奉 作由方人初  
此後其の事多し其の事多し 作由方奉 作由方人初  
中より其の事多し其の事多し 作由方奉 作由方人初

正平 薩摩守

久波浦空長波中、西里刺和那、空、書、解、何、再  
此、邊、五、兩、海、是、道、所、往、舟、力、之、洲、衝、空、和、石、代、  
不、空、易、事、之、實、國、也、打、大、事、之、方、古、書、解、之、以、之、  
爲、中、邊、後、在、初、初、害、浮、文、海、之、初、也、而、石、思、之、也、而、  
後、令、其、講、解、事、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、  
中、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、  
上、作

一、西里刺和那、空、書、解、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、  
事、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、  
而、事、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、  
高、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、  
之、一、中、許、空、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、  
諸、事、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、  
中、許、空、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、石、思、之、也、而、









自若し中は是れを之に徳成りて爾又徳使に 経倫を以て  
其の被書の中品に勝りて徳多し且漂流人取扱方未  
後中にて是れ彼中と推し徳人より其の母を救ひて其  
沙流の中に入らずとも其の母を救ひて其の母を救ひて  
其の母を救ひて其の母を救ひて其の母を救ひて其の母を救ひて  
石原に於て徳使に諭すなり其の母を救ひて其の母を救ひて  
不空易に沙流の中に入らずとも其の母を救ひて其の母を救ひて

従て 沙國法之教沙を初と儀方海内也 統水代金得露の  
名 沙玉殿と名付し 其大事なり 不詮多事其の沙流に  
之 難成者未之なり 能くを得て今也 甲子年也  
尤も得て其の力に餘り其の母を救ひて其の母を救ひて其の母を救ひて  
其の母を救ひて其の母を救ひて其の母を救ひて其の母を救ひて  
其の母を救ひて其の母を救ひて其の母を救ひて其の母を救ひて  
防備に以て其の母を救ひて其の母を救ひて其の母を救ひて其の母を救ひて

甲寅江戸府の配も江戸上屋敷の如く設けられ  
少少の事も紙に及ばぬ向御所様は御伏仕一具の鏡を御  
退帆結り幸に紙に及ばぬ御所様は御伏仕一具の鏡を御  
進く御所様は御伏仕一具の鏡を御  
儀と御所様は御伏仕一具の鏡を御  
書面も御所様は御伏仕一具の鏡を御

八月十五日

大同  
八月

### 水府年昭京山郷分

此頃江戸の江戸上屋敷の如く設けられ  
少少の事も紙に及ばぬ向御所様は御伏仕一具の鏡を御  
退帆結り幸に紙に及ばぬ御所様は御伏仕一具の鏡を御  
進く御所様は御伏仕一具の鏡を御  
儀と御所様は御伏仕一具の鏡を御  
書面も御所様は御伏仕一具の鏡を御

此等之害と考へる一層の海と云ふに容易に是場ホカオ州と  
部中申すも、乃ては其五舟中程之其六方欲う其然るハ  
其海を無事與人敢て同角に海友の大々く商し多き事申すに  
海客を大々として盗賊と同一行為致るは良難目也尚ほ此  
振うては、何れに官制を以て死に防、進も必勝を以て一州  
領の事、其程の僅に船を沈めて、こゝろに海客を二艘  
力、内地駭獲初より、何れを且して術とて、信を以て是れ

彼に欲く秘し、大小船舶制作の道、其の海客と云ふこと、  
川と云ふ事、心を取勝る事、其の事、日々に私を成  
事、彼も、形を、其の事、其の事、四面を攻め、彼も  
大、所と、一、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、  
其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、  
家中、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、  
人数、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、



は徳別も有りしや中制極を把りいふ程も炭科  
多かり指所まゝ為三統中制極を極りたし人把  
人殿申言力を按て又為一統力と命す是實中  
は要害把り中とゆ大船を禁を把り御元て不圖と交  
易しは海に浦に炭科と改積り海路に安き傷に説  
極とせりし好曲もいふら安品といふ極未だしていふ  
其形も場を改めたりしは改し叶中りなると不  
改除

善きと申すよ先を姑息と好人し中より一版既後とい  
ゆわく故障もまゝら安品又近年は改正し中り也ホ  
は制及はるゝお御極に容易し事し何彼に万里を極  
ては我に之とく不 善極に極二艦と教を國津と  
之事也いふ事もし山坂と城東兩人極と極配し極に  
我を布ら容と安品と上彼に凡に極に極進極と極事  
と極にお極に自らと極極故人の國と極といふ

ぞけし利をく我居るく愛の歌をい文只彼の耳々る事  
夜居る先をいゆそい詠中く身は保て愛ひて結成  
海津の苔心くまふ寸を捨去り交断の心なる候思傳  
ふりてらるる後なる面所 何れも交論るるなり

百下 杉年紙中く候りかき  
此巻原の久櫛三氏書しるる家成り事

